

2015年4月28日

第8回長期エネルギー需給見通し小委員会への提出意見

委員 高橋 恭平

1. 本日示された「長期エネルギー需給見通し 骨子(案)」については、これまでの本委員会での議論、さらには、前回会合での坂根委員長のまとめが反映されたものと考えますので、基本的に本「骨子(案)」をベースに今後検討を進めることについて、異存はありません。
2. ただ、再生可能エネルギーの導入量や省エネについて、極めてチャレンジングな内容となっており、経済界、とりわけエネルギー多消費産業に身を置き、従業員の雇用や生活に責任をもつ経営者として、懸念がございます。
3. そこで、今後の検討にあたり、意見を述べさせていただきます。
4. 電力コストについては、震災前の水準以下を実現していただくよう求めてきたところです。引続き、電力コストの低減を図る観点から、以下についてさらに議論を深めていただきたく存じます。
 - (1) 原子力の最大限の活用に向け、安全性の確保を大前提に、既存の原子力発電所の利用ポテンシャルやリプレイス・新增設の可能性の検討。
 - (2) 再生可能エネルギーについては、ベースロード電源となる地熱・水力のさらなる導入可能性の検討。
太陽光・風力については、上述の原子力や地熱・水力の検討を踏まえた導入量の見直し。
コスト低減の観点から、固定価格買取制度の抜本的見直しや再生可能エネルギー分野の研究開発支援の拡充について、最終的な「長期エネルギー需給見通し」への明記。
 - (3) 火力については、経済性はもちろん、エネルギー安全保障の観点からも検討。
5. 省エネについては、実現のためのコストを示したうえで、実現可能性や国民負担の妥当性の観点から、エネルギー需要見通しを更に精査していただくとともに、省エネ分野の研究開発強化についても、最終的な「長期エネルギー需給見通し」に明記していただきたいと考えます。

以上